

急ぎ過ぎだよ 人類は。

ゆるやかなネットワークを目指す

ITより
逢いてえ

雑報 綴文

いろんな差があるから面白い
いろんな人がいるから楽しい

No. 665

2023年11月⁹刊

編集・発行 鈴木厚正

〒266-0005 千葉県緑区菅田町2-21-359

T&F 043-291-2917

も・く・じ

- | | |
|---------------------|----|
| ● 『果てなき旅』のこと、もう少し…… | 2 |
| ● 覇権主義国家にどう対処するか | 6 |
| ● 日米財政の節度格差 | 9 |
| ● 「夜果つるところ」ほか | 10 |
| ● お便利から | 14 |
| ● 山仕事(10月 大平) | 17 |
| ● コヤ人とパリスチナの3000年 | 20 |
| ● ケ・い・じ・ぼん | 24 |



泉ゆきを『じはいつも山頭火』
(日本習字普及協会)



△2名

この見本誌をみて新たに

11月 日現在の
会員数 206名

「読んでみようか」という方は、
年会費 4,000円を

郵便局で 00100-2-20630
「雑報友の会」
へ 併い込んで下さい。

題 字 敬 佐村隆英和尚 (千葉県長柄町本光寺住職)
カ ッ ト 敬 泉ゆきをさん (にっぽん箱絵の会会長)

印刷機 リソグラフ RZ 330

※ この号の切手は、花の彩り。

山仕事(10月、大平)

さしもの猛暑も10月に入ったとたん涼風が吹いた。「日本は四季の国から二季の国になった」という人がいたが、この三日間すばらしい秋空が続いた。ぼくの体調もますます良かった。わしくたびれた。

10月26日(木)、晴。9月の山仕事(6~8日)から2ヵ月近く、久しぶりの山仕事だった。今回、二度目の参加の内田美智子さんと東京駅④ホームで合流。小田原で伊藤康江さんと、掛川で原田、山崎さんと合流し、天浜線敷地駅で正士、久米さんに迎えられる。お母さんもお元気。

買物の後、東重①と常森②の草刈り。竹中さんと山本真由美さん(磐田市地域づくり協力隊)も参加。正士さんはお米の出荷に余念がない。

17:30、暗くなるまでやって、一番風呂を王使わせてもらう。若林さん、夕方に参加。

菅原欽一さんから大量のホタテ(お母)が届いていた。「正士さんの事が心配です」というお便り(No.662)のあった北海道佐呂間町の船木耕二さんが出荷元かな。ご馳走さま。



夜、青山忠義さんがシタケ持参で参加。久米さんが青山さんに出荷時に貼る

シールをプレゼント。絵柄は、康江画伯が描いた青山さんだ。康江さんと久米さんが調理した夕食は、刺身(ホタテ、ビンチョウ)、ジャーマンポテトオムレツ、ホタテの炭火焼き、レンコンの明太とろろ和え、シラス干しと大根おろし、こんにゃくのガーリック炒め、竹中さん提供のさつま揚げ、青山さんのシタケ炭火焼き、金山青みそと、正士さんの手打ちそばを、久米さんのだしとがえしでいただく。夜、原田さんと母屋で寝袋に。



10月27日(金)晴。お母さんが週一回、ショートステイに行く日。

今日は、水窪(みさくぼ)から宍屋千づる、熊谷道子さんがご馳走持参で見える。これで尾上美智子さんが見えたら、内田美智子さんと合わせ雑誌の会員に5Xおられる「みちこさ」のうちぶ人が一堂に会する快挙となるどころだった。残念ながら尾上さんは所用で来られず、代わりに銘酒「おんなごろし」が2名参加された。

この日の作業(午前)は、竹中、山崎、若林さんとぼくがヨザ③の草刈り。原田、守屋、熊谷さんは常森茶園②の草とり。内田さんは、道路に散った草などを掃除してくれた。

その間に、山本真由美さんに伴われて山中圭子さんが見え、10:30に全員でお茶。

昼食は、水窪のご馳走を主に、

五目おにぎり、おはぎ、枝豆(宍屋さんが育てた黒豆)、フライ(アジ、イカ、ピーマン、シタケ)、金時豆煮、ハチの子(宍屋さんがとったクロスズメバチ)、ポテトサラダ。

午後は、坂上利子さん宅の柿園と家まわりの草刈り④。竹中さんは電柵のソーラー電源とり外し。オトビ(衣類にひっつく種子の仲間を、当地ではそう呼ぶ)が残っていて、作業後はその除去に苦勞する。

17:10、作業を終る。水窪の二人はその間に1時間余りかけて帰宅。

この日も一番風呂に入らせてもらい、夜は若林さんに体をほくしてもらう。傾斜地での作業が多く、疲れた。

夕食は、お母さんと青山さんも参加し賑やかに。

刺し身(ホタテ、タコ)、風呂ふき大根、高菜のからし和之、カボチャのバター炒め、牛ごまごこんにゃくのすりゴミ炒め、シラス干しと大根おろし、タコとキノコのアヒージョ、だし巻玉子、チンゲン菜とキノコのシーチキン炒め、ホタテのみも炒め、そして、正士さんのおそばを久米さんのか之しとだして。

食後、久しぶりに原田さんのケーナで合唱。

この夜も、二人、母屋で寝袋。よい月。

10月28日(土)晴。早朝、散歩に出た内田さん、青山さんとカモシカに会ったとのこと。

朝、静岡新聞を見ていると、正士さんも協力している「ホリデー・フォレストーズ」の皆さんが、県の「森づくり大賞」を受賞との記事が。正士さんも喜んでた。

朝食はいつも原田さんが6:30に用意してくれる。焼き魚に納豆(奈江さん提供、山形・大豆トラストの製品)、ごはんとみそ汁が定番。デザートにヨーグルト。トッピングは、若林、山崎さん連携の小豆煮。

9時すぎ、刈払い機の刃の交換、燃料補給などで手間どっているのでも、一人丑さんちの裏⑤の草刈り。2m余りにのびたススキやセイタカアワダチソウは重く、斜面もあって刈りづらい。回転数を上げて刈っていると、「ガキッ」。しまった。キン

カンの樹から2.5m離れた、地上に50cmほど頭を出した直径15mmほどの太い鉄筋に刃を当ててしまったのだ。注意しているのだが、草の重さに気をとられていたのだらう。

1時間余りで燃料が尽き、補給しようと坂を上がると誰も居ない。しまった、今日は坂上賢一さん(故人)の柿園④の草刈りだった。行くと、丁度終ったところ。原田さんは一人、バリカンを使ってツツジの刈りこみをしていました。

(昼) ホタテと野菜のあんかけの硬焼きそば、野菜と豆乳のスープ、式根島の池田清江さんから送られてきたサツマイモのレモン煮、内田さんのお饅頭。青山さんからいただいたシタケを土産に、正士、久米、竹中、若林さんに見送られ、帰宅。次回、11月29～12月1日。

～内田さんのご便り～

◇ 山仕事、大変お世話になりました。皆さんの仕事を理解しました。カモシカにも会えてよかったです。

縄文664号届いていました。栄養素を勉強します。

～お詫びと訂正～

- 山崎さんから、No.6635ページの記事に「モクヨク」の「モク」を「黙」としているが、正しくは「黙」だとの指摘がありました。
- 岸屋さん、熊谷さんから、同じページに「竹中礼子さんがホッカイドを提供、熊谷さんとそのみに貼ってくれた」とあるが、竹中さんと貼ったのは岸屋さんとの指摘がありました。

いずれもぼくの不注意(ぼくが小学生の頃は「黙」だったような気がするけれど)でした。ここにお詫びと共に訂正をします。本来なら直ちに議員もとい雑誌縄文の編集・発行人を辞すべきところですが、関係者の寛大なお礼により、引き続き務めさせていただきます。これからはお注意、ご訂正のほどお願い申し上げます。